

熊本県阿蘇家畜保健衛生所

〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地2639-1

TEL 0967-22-0041 FAX 0967-22-4612



夏場に多い豚丹毒！！

豚丹毒とは？

★豚丹毒菌による感染症で、高温多湿な夏は、豚丹毒が発生しやすくなります。

★症状は急性敗血症型、蕁麻疹型、慢性型(関節炎型、心内膜炎型)など様々な症状を示します。

①**急性敗血症型** : 40℃以上の高熱が突発し、1~2日で急死する。死亡率は高い。

②**蕁麻疹型** : 発熱・食欲不振に加えて感染1~2日後に菱形疹(ダイヤモンド・スキン)と呼ばれる特徴的な皮膚病変を示す。

③**関節炎型** : 四肢関節に関節炎が起こり、関節の腫脹や跛行が見られる。

④**心内膜炎型** : 心臓内の弁にカリフラワー状の腫瘍が形成される。多くは無症状で、と畜場で発見されます。

★宿主域が広く、豚やイノシシの他、人を含むほ乳類や鳥類にも感染する人獣共通感染症です。

★家畜伝染病予防法で届出伝染病に指定されているとともに、と畜場で発見された場合は全部廃棄の対象となります。

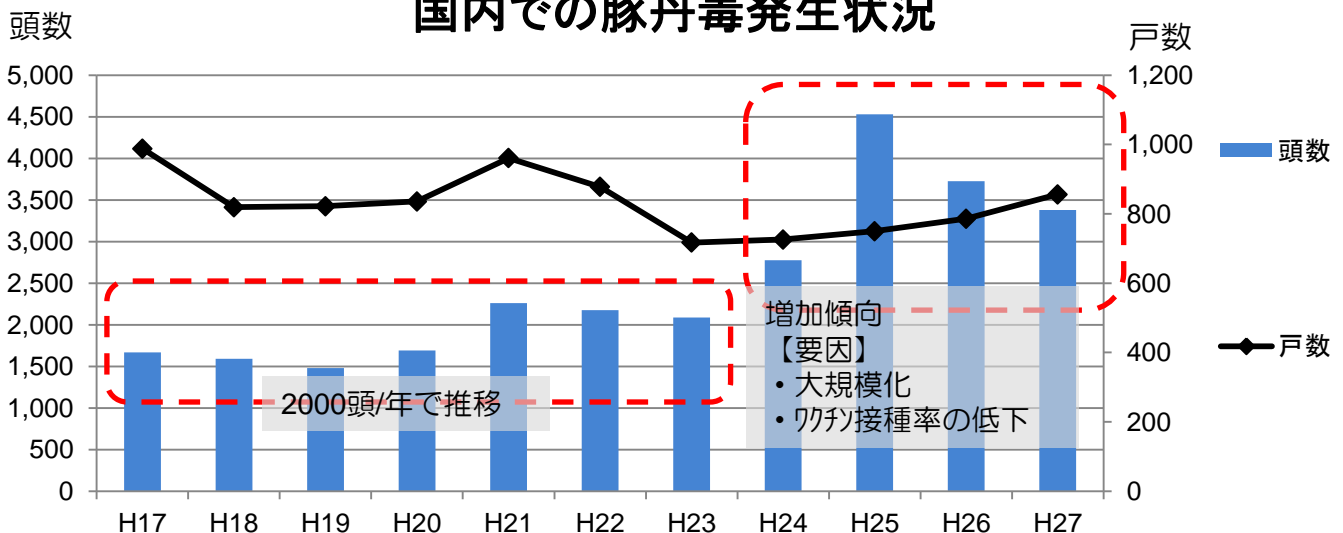


蕁麻疹型；皮膚に菱形疹を呈する



急性型；皮膚に坏死を呈する

国内での豚丹毒発生状況



豚丹毒の対策は万全ですか？

①ワクチンの適正使用：生ワクチンまたは不活化ワクチンの接種が有効です。

1) 生ワクチンの場合、皮下に1回接種します。

善感反応でワクチン効果を確認しましょう！

善感反応とは生ワクチン接種後2～3日頃から接種部位に発赤、丘疹が発現するもので、発現後は1週間程度で消失します。



抗菌性物質の影響を受けやすいため、飼料添加薬剤*の使用に注意が必要です。ワクチン接種前3日間、接種後2週間は抗生剤の使用を避けましょう。

*抗菌剤入り飼料添加物（発育促進等の目的として低濃度で利用）の場合は影響はありませんが、薬事法に基づく感染症の治療に使用される飼料添加物を給与している場合は抗体価が十分に上がらない場合があります。

また、移行抗体の影響も受けやすいため、特に発生農場では抗体検査等により農場の状態を把握し、不活化ワクチンへの切り替えやワクチン接種適期を再検討しましょう。

2) 不活化ワクチンの場合、生ワクチンに比べ抗菌性物質や移行抗体の影響を受けにくいものの、筋肉内に3～5週間隔で2回接種が必要です。

②飼養衛生管理基準の遵守

豚丹毒菌は、発生農場では壁、飼料、換気口など様々な場所から検出されています。一般の消毒薬で十分殺菌効果があるため、豚舎の清掃や消毒を適切に行うようにしましょう。なお、材入豚舎では汚染された敷料が感染源となり、集団発生を繰り返すため、完全な防御は期待できません。

③他の感染症を防ぐ

豚丹毒菌は感染すると扁桃の細胞内に寄生し、スライなどにより免疫力が低下すると発症します。PRRS感染など免疫抑制を引き起こす病気は発症のもとですので、他の感染症のコントロールも重要です。

近隣諸国における悪性家畜伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	モンゴル	7月16日	牛	A型
高病原性鳥インフルエンザ	台湾	6月23日～7月3日	地鶏・がちょう	H5N8

8月1日現在

毎月20日はくまもと家畜防疫の日

韓国や台湾など近隣諸国では依然として悪性家畜伝染病が発生しています。地域全体で衛生水準を上げる事が重要です。

防災情報や家畜伝染病発生情報を配信しています。

下記アドレスもしくは右のQRコードより、登録用ホームページへ！

<http://www.anshin.pref.kumamoto.jp/>

